

私は文旦アンバサダー

まつだ まさこ
松田 雅子さん(58歳)

弘岡上地区より



「サプライズ文旦」
を持つ松田さん。



文旦ムキムキ
動画はこちらから！

文旦が好きすぎて「土佐文旦アンバサダー」をしています。

文旦畑のある弘岡上に嫁いだことをきっかけに文旦の魅力にハマりました。ムキムキするのが楽しくてサプライズ文旦、文旦皿鉢を作ったり、「文旦ムキムキ通信」を発行しています。

本業のライター業を通じて、「高知を元気にする仕事」をしています。情報誌や映像、ご当地ソングの制作など、表現することならなんでも手がけています。コロナ禍で予定していた上映会やイベントができなかった代わりに、文旦とDVDや冊子、ムッキーちゃんをセットにした「文旦ムキムキセット」を発売しました。文旦のおいしさをきっかけに人とのつながりが生まれています。

地域から見守る

やまさき みきすけ
山崎 貴樹助さん(77歳)

平和地区より



昭和45年にJA高知中央会に入会し、主に農協の経営指導にあたりました。入会当時は農業新聞の編集から始まり、監査業務や電算センターの立ち上げ、JA事務を電算化したことも思い出深いです。

出身は黒潮町の上川口です。今でも畑があり、文旦作りに通っています。住んでいる春野町では、露地でエンドウ豆、大根、シュンギク、ソラマメを作っています。畑仕事をしたり、孫の送迎をしたり、晴耕雨読の日々ですね。

JA高知県の発足にあたり、組合員はとても大きな決断をしたと思います。JAはその期待に応えて欲しい。そう思い、地域から見守っています。

高知
地区

から こんにちは
今月の〇〇 気になる人

土居海産より



土居海産のちりめんを使った「ちりめん丼」はレストラン【かつお船】で食べられます。直販所「春の里」でも販売していますよ。Twitterもやってます。詳しくは「土居海産」のホームページで！

できたてほやほや朝どれ 釜揚げちりめん

こまつ ひさよ
小松 久世さん(51歳)
こまつ まさし
小松 正嗣さん(43歳)

「4代目を継いで、今年で2年目になりました」と話すのは、お洒落なエプロンに合わせたファッションが目を引く社長の小松久世さん。もともとOLをしていましたが、3代目だった母が高齢になったこともあり、継ぐことを決意しました。

今では夫と一緒に、製造・加工・販売を行っています。【どろめ】【ちりめん】【かちり】の三種類を販売していて、どれも人気ですが、乾燥具合を見極めながら作る【かちり】がおススメ！朝どれの【どろめ】も常連さんには人気です。ちりめんは、カルシウムだけではなくコラーゲンも豊富に含まれているので、美容と健康に良いですよ。定番の「ちりめん丼」には、卵かけご飯用の醤油が相性抜群です！

※かちり=天日干して乾燥させたもの

トマトのおいしさ伝えたい

のむら
野村 かおるさん(25歳)

「野菜がタルト」アグリコレット店の店長をしています。県外で就職していましたが、農業にかかわる仕事がしたくて高知に戻りました。

週の半分はトマトハウスで作業をしています。自分で作った商品でお客さんが喜んでくれると、この仕事をしてよかったと実感します。

新しい商品のレシピ開発もしています。トマトチーズカレーは自信作です。火を通したトマトのうまみがチーズやカレーを引き立てます。フレッシュトマトをしぼったジュースもおすすめです。お客さんの声を聴いて、商品に磨きをかけたいですね。

とさのさとアグリコレットより



できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！

5 高知県

よさこいジビエフェア2021開催



ジビエ料理を楽しむ来店客

高知県内で1月から2か月間、「よさこいジビエフェア2021」が開催されています。野生鳥獣被害対策のために捕獲した鹿やイノシシなどを有効活用するため、県内のレストランなど45店舗が参加。イノシシ肉のオリジナル丼、ビール煮込み、鹿肉のロースト、ステーキなど各店の特徴のあるジビエ(野生鳥獣の肉)料理が提供されます。期間中に配布されたガイドブックについて応募はがきにスタンプを押して応募すると、抽選で「高知の鹿革名刺入れ」などがプレゼントされます。

3 農業技術センター

農業の研究成果を展示



顕微鏡で苗木を見る参加者

高知県の農業技術センターで1月16日、「2021公開DAY」が開かれました。果樹試験場や茶業試験場を含むセンターの研究業務や成果を、パネルや実物を展示するなどして紹介しました。研究室や温室を巡る見学ツアーや、県産の花々を使ったフラワーアレンジメント教室、天敵昆虫を詳しく学ぶ「虫の観察コーナー」、ドローン(小型無人飛行機)が操縦できる「ドローン飛行体験」など豊富な内容で、親子連れが楽しく体験しました。

6 高知地区

土佐茶 今後の取組について意見交換



会議の様子

土佐茶輸出の取組内容に関する説明会が2月3日、高知市五台山にある購買事業本部3階会議室で開かれました。令和2年産茶生産状況や茶商からの要望について、当JAより報告。肥料の実態調査結果や改善、土壌分析診断結果についても、資料解説を行いました。また、今回のメインである国の事業を活用した輸出の取組について、県の農産物マーケティング課が説明。その後、出席者との意見交換会が行われました。

4 高知地区

人材育成フォロー研修



実践報告をする参加者(高知市で)

高知市のJA教育研修センターで1月15日、中核人材研修フォロー研修会がWEB形式で開かれ、高知県と愛媛県のJA職員14人が参加しました。昨年実施した本研修では、JA事業における問題点を抽出し、解決策を論文にまとめ発表。今回のフォロー研修では、各職場での提案論文の取り組みの進捗状況と実践報告を行いました。参加者は「コロナ禍で仕事も生活も環境が変わり、障壁や課題を感じていた。再びスピード感を持って業務改革に取り組むきっかけになった」と話しました。



目録、感謝状などを手にする伊藤教育長(中央)

1 高知地区

小・中学校に花の種寄贈 花を育てて命学んで

JAバンク高知信連と農林中央金庫は1月12日、高知県内の公立小・中学校、特別支援学校にヒマワリやコスモス、アサガオなど9種類の種、2万1000袋を寄贈しました。信連の東山英仁常務と農林中金の平瀬大輔高知県担当部長らが高知県庁を訪問。伊藤博明教育長に種と目録を手渡しました。東山常務は「世話をしている経験は大事。その経験から命や食べ物を大事にする心を養って欲しい」と話しました。伊藤教育長は「それぞれの学校で環境美化や卒業式などに使ったり教材を作るなど目的を持って活用している。寄贈は大変ありがたい」と感謝しました。花の種の寄贈は平成19年度から農林中金が始め、平成21年度からは「JAバンク高知」として同信連と連携して行っています。



大会に向け、花いけの練習をする生徒

2 高知地区

大会に向け・練習に熱 高校生花いけバトル

「高校生花いけバトル高知大会」に向け、1月25日に高知市で練習会とオリエンテーションが開かれました。出場予定の県内高校の生徒や、花いけバトルに興味を持つ生徒が練習に励みました。大会は高校生が即興で生け花を仕上げ、出来栄を競います。JAグループ高知、県などでつくる高知県園芸品販売拡大協議会は会場に、ダリア、ユリ、グロリオサ、ユーカーリなど60種類以上の花材を用意。練習会に初めて参加した土佐女子高校2年の小島有理さんと川添あづみさんは「緊張したがやってみると楽しい」と熱心に練習を重ねました。大会には、県内8高校から23チーム46人が出場を予定。参加を決めた高知学芸高校1年の市川桃子さんと山崎望央さんは「全力で表現できるのが魅力。花と器をマッチさせることを意識したい」と意気込みました。 ※2月11日の高知大会で、高知学芸高校の市川桃子さんと山崎望央さんのチームが優勝しました。おめでとうございます！

高知農業改良普及所より

農福連携のススメ 「高知市農福連携研究会」の活動を紹介

●労働力確保問題

現在、抱えている大きな農業問題の一つとして、労働力問題が挙げられます。高知市春野町においても、農家の高齢化や後継者不足により、家族労働力が年々減少するに連れ、容易に外部の労働力を入れることができずに、規模を縮小していく傾向も見られます。

JA高知県春野営農経済センターでは無料職業紹介所を設置し、労働力の斡旋に尽力されていますが、なかなか100%の斡旋率には届かないのが実情です。

これらの背景を受けて、新たな労働力確保対策の一つとして、地域に潜在的に存在する労働力として「農福連携」の取り組みが始まっています。R1年7月1日には農業と福祉、それぞれの関係機関による「高知市農福連携研究会」を設立しました。

●高知市農福連携研究会の活動

研究会メンバーは、普及所（事務局）、JA春野営農経済センター、JA高知市、高知市農林水産課・各地域振興課・福祉管理課・障がい福祉課。さらに民間の福祉サービス事業所にも入って貰っています。

高知市春野町では、研究会主催で2回の見学会（JA出荷場とキュウリ農家）と、1回の体験会（JA出荷場）を開催しました。これまでに延べ18の福祉サービス事業所等から計42名の方が参加されており、農業に興味を持つ福祉関係者が徐々に増えて来ています。

また他にも、農福連携への理解を深めて貰うため、JA高知県春野胡瓜部会や青壮年部春野本部の研修会などで、紹介を行ってきました。



キュウリ出荷場体験会

●高知市春野町の農福連携事例

高知市春野町では既に10年前から農福連携に取り組まれているのをご存じでしたか？
現在までに5つの農業法人（トマト、果樹）と4戸の個人事業者（キュウリ、果樹、花き）で、農福連携の事例があります。契約方法は様々ですが、大まかに下表の2つに分かれます。参考にしてください。

相手方	契約方法	料金	勤務時間
福祉サービス事業所	作業受委託	出来高制 等	事業所の都合（例10～15時）
就労困難者個人	直接雇用	時給 等	農家の都合（例8～17時）

また、農家からは「周年、作業がないとダメだろう？」と思われがちですが、意外とそうでもなくて、逆に「単発・短期の仕事は請け負い易い」という事業所もあります。

●農福連携を始めるために

受け入れ側で考えなければならないのは、作業方法の見直し。これまでの「①をして②をして、③だったら④をして、それから次の株へ」という作業手順を、切り分けて単純化することを考えてみて下さい。例えば、「この位置から下を摘葉」等々、指示を受ける側が迷う余地のない指示の仕方などの工夫が必要になります。

一方、福祉側にも事前準備が必要になります。農業経験や知識のまったくない方へすぐ作業して貰うのではなく、見学会→体験会→試行就労→就労という手順を踏んでいます。これは受け入れ側の農家にとっても練習の場となり、必要なこととしています。

R3年2月現在で、高知市全体（JA高知市管内含む）ではこれまでに農福連携事例は29事例あり、うち9事例が高知市農福連携研究会によるマッチングとなっています。

引き続き、農家が労働力不足で困ることがないよう、一手立てとして農福連携を進めていきたいと思えます。是非、「ちょっと検討してみても良いよ」という方は、普及所までお声かけください。



お問い合わせ先 高知県中央西農業振興センター高知農業改良普及所
電話 088-861-0711 FAX 088-861-0660

えい|の|う|～



鳥獣被害対策専門員からのお知らせ

鳥獣被害対策専門員 よこさこ ゆうた 横佐古 優太
携帯電話:090-3189-0373

鳥獣被害対策専門員の行う支援について

鳥獣被害対策専門員は高知県内に16名おり、地域に密着して幅広い支援を行っています。支援内容は、以下の様なものがあります。

- ◆被害相談：農作物被害があったほ場に出向き、被害状況の把握や対策方法の提案などを行います。
 - ◆被害調査：カメラの設置等を行い、加害獣の特定や、侵入ルート判別を行います。
 - ◆柵の設置指導：電気柵やワイヤーメッシュ柵などの設置方法を指導・補助します。
 - ◆事業活用のサポート：多くの市町村が獣害対策に対して補助金を出しています。その申請等のサポートをします。
 - ◆新規狩猟者へのサポート：狩猟免許の取得や、罠づくりのサポートなどを行います。罠づくりに必要な道具をお貸しすることもできます。
 - ◆勉強会の開催：希望する地区において、鳥獣被害対策勉強会を開催します。夜間の開催も可能です。
- 鳥獣被害対策専門員は様々なサポートを行っています。鳥獣の被害でお困りの方、狩猟に興味がある方、ぜひお気軽にお問い合わせください。



地区での勉強会の様子

ストップ！ 農作業事故

情報、技術を復習し理解を深めよう

人間工学専門家●石川 文武

高齢化に伴って、体力、視力、聴力などは低下します。その他の機能の中で、20代に比べて、学習能力は60%、記憶力は55%程度まで低下しているというデータがあります。

これからの農業は、肉体労働主体から精神労働主体に変わっていきます。新しい技術を吸収して円滑な農業を継続するには、何に気を付ければ良いでしょうか。

まずは、高齢になると、新たな情報取得がおっくうになってきます。それを補うには、地域で開催される「農作業安全講習会」に積極的に参加しましょう。かつては安全イコール事故情報と思われていましたが、最近ではそうではなく、事故に至る背景要因と再発防止のための行動へのヒントが話題の中心となっています。「農作業安全の話聞いても、収量や品質が良くなるわけではないから、聞くだけ無駄」と思われるかもしれません。しかし、万が一事故があれば、適期作業を逃すだけでなく多くの経済的損失や精神的ダメージがあることを考えてください。極端な場合には、離農せざるを得ない例もあります。スマート農業などの情報も得られます。まずは参加することが大切です。

ほぼ一年中使う機械もあれば、数日しか使わない機械もあります。購入したときだけでなく、シーズン初めには、もう一度使い方について取扱説明書をしっかりと読み直しましょう。自己流で行っていたことが見つかったり、間違った調整だったことが見つけられたりする可能性もあります。機械の機能が正しく発揮されるように、操作方法を復習し、簡易な点検・調整も行いましょう。その際に、機械の安全装備について、正常に機能するかの確認も忘れてはいけません。安全装備が不十分な状態で作業をすることは、事故を呼び込んでしまうことにもなります。前年までに感じたヒヤリハットを思い出し、その背景についても再確認するように心掛けましょう。何歳になっても、新しい技術などを理解し、豊かな農業生産に取り組む姿勢を忘れないでください。



皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

日本地域情報コンテンツ大賞2020企業誌部門優秀賞受賞おめでとうございます。県下のJAが合併してからの広報誌は、内容が濃く、見ていても楽しいです。

(春野町平和 72歳)

「こうぐり」優秀賞おめでとうございます。編集する方々の喜びやご苦労を紹介して下さい。

(春野町弘岡中 67歳)

▼ありがとうございます！皆さんに愛される広報誌作りに引き続き取り組んで参ります。広報担当者の取材の裏側などを掲載してみても面白いかもしれませんね。

同い年の友と「年金もらうのJAしたら、年金友の会で旅行に行こう」と話しています。健康でいなければ!!

(高知市介良 61歳)

▼前向きになれる目標を掲げられてとても素敵ですね。お友達との旅行計画も楽しそうです。健康第一でお過ごしください!

毎月広報誌をとっても楽しみにしております。毎月綴じて1年分を読み返すのもいいものです。役立つことがいっぱいあります。読者プレゼントも脳トレにはいいです。楽しいです。

(高知市針木本町 77歳)

▼毎月広報誌を綴じていただいているのと、ありがとうございます！読者プレゼントのパスルは頭の体操にピッタリですよね。次回もお楽しみに!

輝け！新農人コーナーの湊さん。大学で理系専攻でありながらその知識を農業で生かせるなんて素敵ですね。頑張ってください。

(高知市十津 65歳)

▼環境制御技術にピンと直感が働いたというのも、理系専攻されていた湊さんだからこそだと思います。知識を最大限に活かして、今後も活躍していただきたいです!

新組合長しつかりと頼みます。

(高知市福井町 62歳)

▼新組合長始め、役員一同全力を尽くして新しいJAの未来を作り上げて参ります。

農作業をされている人達の笑顔がまぶしいです。地域の人々と触れあいながら作っていたり、頑張っている様子がとても伝わります。

(春野町森山 53歳)

▼地域を、高知県を、そして日本を支えている生産者の皆様作り出す特産品は高知の宝ですね。その笑顔や苦勞を広報誌とおして、今後も伝えていきたいと思ひます。

「花のある暮らし」の生け花がとても素敵でした。とさのさとでよくお供え用の花を購入していますが、今年は生け花にもこだわっていつそう花のある暮らしを楽しみたいと思ひます。

(高知市北久保 37歳)

▼コロナ禍でおうち時間も増えているかと思ひます。そんな中で、日常の生活に花があると気分も穏やかになりますね。ぜひ生け花にもチャレンジしてください!

INFORMATION

お知らせ

きゅうり部会よりお願い
空きハウスを探しています
空きハウス活用しませんか

新規就農者独立への取り組み

きゅうり部会では栽培面積の減少を防ぎ産地を維持することを目的に、平成24年より指導農業士の元で新規就農希望者の研修を1年間行い、終了後は独立・就農していただく取り組みを行っています。

研修終了後の新規就農者は中古ハウスを借りてきゅうり栽培をスタートします。つきましては使用していないハウスがある方、その様な情報をお持ちの方は営農渉外課(☎894-5660)へご連絡いただき新規就農者へハウスを貸していただきますようお願いいたします。

研修終了後新規就農者数・栽培面積

平成26年 1名・20%	平成27年 3名・60%	平成28年 2名・30%
平成29年 1名・29%	平成30年 1名・15%	令和1年度 1名・10%

【連絡先一覧表】

春野支所	営農経済センター
総務課 894-3033	店舗課 828-6116
信用課 894-2203	JAグリーンはるの店 828-6161
共済課 894-3304	配送部門 828-6113
金融渉外課 894-3309	重油係 828-6115
高吾サービスセンター(事故処理) 892-3605	Aコープはるの 894-2225
営農経済センター	養蠶出荷・加工場 894-5424
販売課 894-2222	はるちゃんのアイス屋 894-2760
営農渉外課 894-5660	JA子会社
購買課 828-6111	(株)JAエナジーこうち 春野給油所 828-6212
ビニール加工場 894-4264	ルミエールはるの (フリーダイヤル24時間) 0800-200-5911
農機センター 894-5290	